
勿忘草と虹の空

霧襖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勿忘草と虹の空

【Nコード】

N3269D

【作者名】

霧襖

【あらすじ】

幼い頃に出会いを果たしていた二人の子供達。やがて成長するにつれてそんな記憶も…

プロローグ

——あの少女を見たのは、もう随分と前の事だった。

視界を覆うくらい長い、黒々とした髪。

それに相反するように見事なまでに真っ白なフリルの付いたワンピース。

とても、不思議な感じがした。

まだ幼い僕は、そんな不思議な空気を纏う彼女に視とれて暫く惚けていた。

僕が彼女を眺めてから、いったいどのくらい経つのだろうか。

彼女は空をじっと睨み続けてその場からピクリとも動かない。声を掛けたい衝動に刈られるが、いかんせん体が言うことを聞かない。

僕は女の子の後方でうろうろしていると不意に、彼女の方から話し掛けてきたのだ。「何をしてるの？」

透き通った、鈴の音の様な声。

「あ……う……」

僕は急に話し掛けられ動揺する。

まさか気付かれていたとは。

「迷子……って訳じゃなさそうね？」

女の子はこちらの顔を覗き込むように腰を捻り、上目遣いで見つめてくる。

「あうあ……」

それが更に動揺を増し、忽ち僕の顔は真っ赤になっていく。

女の子は、微笑みながら僕の手を引っ張る。

「ほら。君も一緒に見ようよ！綺麗な虹が出てるんだよ？」

小さなベンチに上ると女の子は背伸びをしながら空を指差す。

「あの虹にはねー私のお父さんとお母さんがいるんだって！今は二人で遠い所にお出掛けしてるんだよ」

屈託の無い笑顔で笑い掛ける少女。

幼い頃の私も、*んでしまった人が何処に行くのか何て考えたこともなかった。

「私も大きくなったら私もあそこに行くんだ！君も一緒に連れてってあげるよ」

少女はまた先程と同じ笑顔で笑い掛ける。

幼心ながらも初めて交わした約束は僕の心を満たすのに十分だった。

「絶対だよ？約束だよ！」

「うん。二人だけの約束！」

いま思えば、あれが僕の初恋なのかもしれない。

『必ず二人一緒に……』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3269d/>

勿忘草と虹の空

2010年10月22日10時10分発行